

特集／こども図書館

絵本 すきすきだいすき

何度でも
読みたい絵本、
司書さんが
選びました

絵本A「ぐりとぐら」

長く愛されてきた絵本

出版されてから25年以上経過した絵本の中から、
10冊を厳選しました。



A「ぐりとぐら」 なかがわりえこ／文 おおむら
ゆりこ／絵 福音館書店

かごをもって森へでかけたのねずみのぐりとぐらは、とても大きな卵を見つけました。ふたりは、卵でかすてらを作った森の動物たちにごちそうします。

B「おおきなかぶ」 A・トルストイ／再話 内田
利沙子／訳 佐藤忠良／画 福音館書店

おじいさんがかぶを植えると、大きなかぶができました。一人では抜けないので、おばあさん、孫、犬、猫、ねずみまで手伝って、やっと抜くことができました。

G「三びきのやぎのがらがらどん」 マーシャ・
ブラウン／絵 せたいじ／訳 福音館書店

3びきのやぎが草を食べて山に登っていくと、途中の谷川にトロールがいます。小さいやぎと中ぐらのやぎが逃げた後、大きいやぎがトロールをやっつけます。

I「ちいさなうさこちゃん」 ディック・ブル
ー／文・絵 いしい
ももこ／訳 福音館書店

うさぎのふわふわさんとふわふわさんに赤ちゃんがうまれました。うさこちゃんと名付けられたその女の子が欲しがりますが、服のボタンがとれているので買ってもらえません。

J「もこもこもこ」 谷川俊太郎／作 元
永定正／絵 文研出版

「しーん」と静かなところで「もこつ」と何かが出てきましたよ。「もこもこ」と大きくなると、不思議な形と言葉のリズムが楽しい絵本。

絵本は子どものためのものでもあり、大人が読んでも引きつけられるものでもあります。読み聞かせによる親子のふれあいは、一生の大切な楽しい思い出にもなります。

児童図書館が広島市に建設され今年で60周年。絵本の楽しさや魅力を伝え続けてきました。司書おすすめの絵本やその仕事などを紹介します。

新定番の絵本

平成元年以降に出版された絵本の中から、
6冊選びました。



K「あがりめさがりめ」 ましませつこ
／絵 こぐま社

「あーがりめ さーがりめ ぐるりとまわって ねーこのめ」。ねこさんと一緒に歌いながら赤ちゃんと遊びましょう。親子で遊べるわらべうたを紹介しています。

L「どろだんご」 たなかよしゆき／文
のさかゆうさく／絵
福音館書店

みんなで泥だんご作り挑戦! ざぼと水を穴に入れ力いっぱいかき回したら、泥の手袋のできあがり。丸めた泥に乾いた土をまぶしてぎゅっぎゅっとにぎろ。

M「二ひきのこぐま」 イーラ／作 松岡
享子／訳 こぐま社

冬の間に穴の中でうまれた二ひきのこぐまたちは、春になるのを待ちかねて外へ出てきました。追いかけてこや木登りをしているうちに迷子になってしまいます。

N「おちのじかんにきたとら」 ジュ
ディス・カー／文・絵 晴
海耕平／訳 童話館出版

ソフィーとお母さんがお茶の時間にしようとしたら、虎がやってきました。一緒にお茶をしたいと言う虎は、テーブルにつくと食べ物全部食べてしまいました。

O「やさいのおなか」 きうちかつ／作・
絵 福音館書店

これなあに? まるでやさいのおなかをのぞいているみたい。輪切りにした野菜の断面図が黒一色のシルエットになっていますよ。なんのやさいが分かるかな?

P「ばばばあちゃんなんでもおこのみやき」 さとわか
きこ／作 福音館書店

「何かあったかいものを作って食べよう」とばばばあちゃん。庭で採れたキャベツで作ったのは、そば・肉・玉のお好み焼き! 熱いうちにみんなで食べよう。

季節の絵本

寒い冬。この季節ならではの楽しみを絵本で
味わうことができます。



Q「ふゆめがつしょうたん」 長新太／作
富成忠夫・茂木透／写
真 福音館書店

寒い冬の日、木の枝に芽がきはじめた新芽たち。春になったら、どんな花が咲くのでしょうか? おや、よく見てごらん。だれかの顔に似ていますよ。

R「てぶくろ」 エウゲーニ・M・ラチ
ョフ／絵 うちだりさこ
／訳 福音館書店

冬の森でおじいさんが手袋を落とした。ねずみやうさぎ、くまなどの動物が次々とやってきて、その中に住みつきます。手袋は今にもはじけそう。

これっ!と思う本は人それぞれ。小さな子どもも、好きな本に個性が出ます。図書館でたくさんのお絵本に出合っ、あなたのお気に入りを見つけてください。

図書館司書日記

こども図書館で働く司書の日常はどんなものなのでしょう。ある女性職員の、図書館での日常のエピソードをつづります。



某月某日

今日はおはなし会の日。参加者は、3歳から小学校低学年くらいの子とその保護者、合わせて15人。1冊でも心に残る本に出合ってもらえるといいな、と思いながら、おはなし会を始める。

絵本を読み始めると、子どもたちが物語の世界に引き込まれていくのがわかる。子どもたちのさまざまな反応を心の中で受けとめながら読みすすめる。絵本を4冊読んだ後、部屋を暗くし、ろうそくに火をつけてお話を語る。子どもたちはそれぞ

れ、頭の中に情景を思い描きながら聞いている様子。お話の楽しさが子どもたちに伝わったと感じる時は本当にうれしい。

某月某日

赤ちゃんを連れてお母さんから、「初めて読んであげる絵本はどんなものがよいですか?」という質問を受ける。色や形がはっきりしているもの、ことばの響きが楽しいものなどが小さな子に適していることを話す。「おひざにだっこえほん」コーナーからおすすめの絵本をいくつか紹介する。コーナーには、ご自身が子どもの頃

に読んでもらった絵本も何冊かあったそう、ととても懐かしそうだった。

某月某日

子どもたちの心を豊かにする本を選んで手渡していくことは、とても大切なこと。こども図書館は、おはなし会などの行事を通して直接本を紹介するだけでなく、リストを作って本の紹介をしている。

職員全員でリストに載せる本を選び、分担して紹介文を書き、校正をする。限られた字数の中で本の魅力をまるごと伝えるのは難しい。たった100字前後の紹介文でも、悩みながら、何度も何度も書き直す。「この本読んでみたい!」と思ってもらえるような紹介ができるよう、明日もみんなががんばろう。

こども図書館



こども図書館はどういう施設?
役割や事業内容を紹介します。

1

どんな施設?

こども図書館は、児童・生徒の教養の向上と福祉の増進に資する目的で、広島市こども図書館条例により設置された施設。全市を対象とした、子どもの本を専門とする独立図書館で、児童サービスの中核的な役割を担っています。

約18万冊の蔵書があり、児童図書保存のほか、調査・研究の利用に供しています。年間貸出冊数は、約11万5千冊。

建物は中央公園内にあり、こども文化科学館との合築。南側にはC59型蒸気機関車、東側にはハノーバー庭園などがあります。



2

事業は?

資料収集
貸出、読書
相談のほか、
次のような
活動を行っ
ています。

●おはなし会(年間140回)、読書会、児童文化講演会、地域読書ボランティア養成講座などの集会事業開催 ●子ども読書まつり、読書相談会などの行事開催 ●図書館招待、昔話出前事業、職場体験事業など学校連携 ●本の展示 ●読書案内発行 など

おはなし会や講演会など図書館催しもの情報の詳しくはHPで
広島市立図書館 検索



こども図書館発行の読書案内。推薦図書やQ&Aを掲載。館内で無料配布しています

3

運営は?

財団法人広島市未来都市創造財団が指定管理者として、図書館の管理運営を行っています。市の所管は生涯学習課。こども図書館の職員体制は、館長と司書など8人の職員。事業の実施や施設の運営を行っています。

※指定管理者とは、地方公共団体から指定を受けた団体が、公の施設の管理を代行する制度です



〒730-0011 中区基町5-83
開館午前9時～午後5時
休月曜日、祝日の翌日、図書整理日(奇数月の末日)、12月29日～1月4日、特別整理期間。詳しくはHP(検索:広島市こども図書館)かお問い合わせ
☎221-6755、☎222-7020

History 誕生の歴史

今も昔もこどもの地



児童図書館が開館したのは昭和28年12月、今年60周年を迎えます。現在のこども図書館が建設される前の昭和53年まで、この地に建っていました。建物はじょうご型の筒柱を中心とする総ガラス張りの円筒形。丹下健三氏設計の斬新なデザインは人気を呼び、たくさんの子どもたちでにぎわっていました。

この児童図書館誕生の陰には、「原爆に打ちひしがれている広島市の児童のために」という米国ロサンゼルス市南加広島県人会など多くの人からの支援がありました。建設費の80%近くは海外在住の日本人からの寄付金で、身を削るようにして集められた浄財でした。

現在、こども図書館の1階にその生い立ちを記した銅板が、2階には建物模型が展示され、当時の様子を伝えています。

児童図書館の館内(昭和46年)

開館のきっかけの児童書

こども図書館は、戦後アメリカで読まれた児童文学の古典や評価の高い創作絵本などの初版本、約700冊の洋書コレクションを所蔵しています。

「ベル・コレクション」と名づけられた貴重な資料は、主に昭和24年、在米広島県出身関係者からハワード・ベル博士を通じて市へ寄贈された本です。子どもたちに寄せる文化復興への願いが込められたこのコレクションは、児童図書館開館の契機となり、その思いは現在もこども図書館に引き継がれています。

ワンダ・ガアグ(白雪姫と七人の小人たち) 1938年発行の初版本

ワンダ・ガアグ(白雪姫と七人の小人たち) 1938年発行の初版本

ワンダ・ガアグ(白雪姫と七人の小人たち) 1938年発行の初版本

ワンダ・ガアグ(白雪姫と七人の小人たち) 1938年発行の初版本

ワンダ・ガアグ(白雪姫と七人の小人たち) 1938年発行の初版本

絵本の楽しみを知ろう

本を読んでもらうと、自分で読むよりも何倍も面白く感じる、そんな経験はありませんか。これは「聞く力」があつてこそ。子どもの成長の中で聞く力は重要で、絵本はそこで大きな役割を果たしているようです。菊野秀樹さんに聞きました。

同じ絵本を何度も「読んで!」と子どもからせがまれる。これは子どもの成長について考えるとき、とても興味深い行動です。

ストーリーをすべて覚えてしまっているはずの絵本を、子どもはどうして何度も持つてくるのか。絵本を読んでもらうことは子どもにとって楽しい体験で、何度でも体験したいからなんです。物語には、子どもを楽しくさせたり、気持ちを満足させたりする力

し、耳と目で何倍も面白く感じます。読んでもらうことで、次第に「聞く力」がついてきます。そうなると子どもは本の世界に入り、登場人物の喜びや悲しみ、苦しい経験に共感し、それを自分のものにしていきます。子どもが本の楽しさを

知ること、は、生きる喜びや力につながっています。

子どもが本を読んでもらうひととき、楽しい時間を、ぜひ大人が作ってあげてください。

菊野秀樹さん
比治山大学短期大学部
幼児教育専攻科教授



絵本は大人が読んであげて

本を読んでもらうとその世界に集中

こども図書館2013年
貸出ランキング

1位 くだもの
2位 もこもこもこ
3位 いらないないばあ
4位 かいじゅうたちのいるところ
5位 ごぶごぶごぼごぼ
6位 おててがでたよ
7位 まるくておいしいよ
8位 くらねこかあさん
9位 おつきさまこんばんは
9位 だるまちゃんとてんぐちゃん

「くだもの」
平山和子／作
福音館書店

※ランキングは2013年1月～11月末の集計です